（別紙4）　　平成　28　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2390100093		
法人名	医療法人偕行会		
事業所名	認知症高齢者グループホームちくさ　3F		
所在地	愛知県名古屋市千種区下方町7丁目29番地の1		
自己評価作成日	平成28年11月24日	評価結果市町村受理日	平成29年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2390100093-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成28年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームには、小規模多機能事業所を併設していることで、小規模多機能からグループホームへの移行が可能である。併設型の利点を活かして、夜間には3名の夜勤職員が勤務している体制であり、非常災害時や利用者の急変時には、事業所間で連携した対応が可能である。今年度からはホーム内に居宅介護支援事業所を開設しており、地域の方のニーズの把握や地域包括支援センター等、関係機関との情報交換の機会にもつながっている。また、ホームでは利用者が居室内で安心して過ごしてもらうように、最新の見守りシステムの導入が行われており、職員による見守りとシステムによる見守りが行われている。また、毎週のカンファレンスの時間を設けており、職員間で利用者一人ひとりに関する情報の共有を行いながら、利用者の意向等に合わせた支援につながるような取り組みが行われている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	全体的にみると理解は浅い ほとんどの職員が理念を知っているが実践しているかは不明	運営法人の基本理念をホーム職員の基本としており、日常的に職員間で理念の唱和を行っており、理念の共有と実践につなげている。また、理念をホーム内に掲示しており、職員が理念を意識するように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	できていない 運営推進会議などしか地域の方は来ない お祭り等の参加	地域の方との交流については、併設の事業所と連携して行われている他、今年度から居宅介護支援が開設されたこともあり、地域の方との交流につながっている。ホームで定期的に交流会を計画しており、地域の方との交流に取り組んでいる。	ホームでは、今後に向け、徐々に交流の機会を増やしていく方針である。併設の小規模多機能や居宅介護支援とも連携しながら、ホームでの取り組みが運営につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	全職員への周知はできていない。また、地域貢献も地域住民への理解は薄い 地域との交流が少ない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現場職員までは発信出来ておらず 運営推進会議の意見はあまり現場におりてきていない	会議の際には、医療面での専門職の方や福祉用具の方の参加が得られており、ホームの運営につながるような取り組みが行われている。また、ホームの家族の参加が得られており、情報交換にもつながっている。	会議に地域の方の参加が得られていないが、今後に向け、参加への働きかけを行っていく方針でもある。ホームからの継続的な出席への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	上長クラスはやり取りがある	区内の介護事業所が集まる連絡会への参加や地域包括支援センター職員との情報交換等については、主に併設事業所を通じて行われている。ホーム管理者が事業所全体の所長でもあり、ホームの運営への反映につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束の定義に伴い実践はできている 扉、窓は施錠しており自由に外へ出られない	ホーム建物の構造上の制約もあり、各ユニット間には施錠が行われているが、利用者に合わせて外に出る対応が行われている。また、管理者より朝礼の時間を活用して、繰り返し注意喚起の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待にもいろいろあるが身体的に関しては確認はできている。関わり方については不透明な面もありその面をむけるべきである。 虐待の勉強中		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	対象者がないのもあるが学ぶ機会がない 以前勉強したが活用していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	上長のみが行う		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現場職員が家族との関わりがあり表せる機会はあるが外部者ともなると難しい	ホームの行事の際には、家族にも案内を行っており、家族との交流の機会をつくっている。意見箱の設置等、要望等の把握に取り組んでいる。また、ユニット毎に便りの作成が行われている他、担当職員による利用者毎の報告を添える取り組みが行われている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議にて行っている	毎月の職員会議を行っている他にも、日常的に申し送りの時間を活用した意見交換の機会をつくっており、ホームの運営につなげる取り組みが行われている。また、法人本部の役職者がホームに定期的に訪問しており、管理者との情報交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者だけでは現状個々の状況に追いついていない部分もある 満足度は高いと思われるが有給休暇の取得についてはスムーズとは言えない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	フロアユニットにリーダーを配置しトレーニングを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同一法人での関わりはあるが他法人は上長クラスのみ 現場の職員はない		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人だけでなく家族からの声も参考にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人だけでなく家族からの声も参考にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	総合的に考える中左記項目の支援も視野に入れ努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	重点に捉え関係作りを行っている 暮らしを共にする者同士関係を築いていけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	各々役割を持ち負担のないよう家族にも協力していただき行っている 毎月の手紙や面会時に情報の共有をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外部との関係はほぼ切れてしまっている	利用者の中には、入居前からの友人、知人がホームに訪問することもある他、行きつけの喫茶店がある方はホームから出かけており、馴染みの方との交流の機会にもつながっている。また、利用者により、家族との交流の機会が得られている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	全ての利用者に配慮している 利用者同士コミュニケーションがとれている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後は知らない		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている	職員間で毎月の利用者に細かな情報提供が行われており、日常的な申し送りと合わせて、利用者の意向等の把握に取り組んでいる。また、毎週のカンファレンスの機会をつくっており、職員間で意見交換を行いながら、アセスメントへの反映につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	前日の介護記録を見たり前日までの様子、状態を把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスを行ったり家族に意見を聞くなど定期的に行っている	会議計画については、6か月毎に見直されているが、担当職員による毎月の利用者に関する報告を通じたモニタリングが行われており、変化に合わせた見直しにもつなげている。また、個々の記録用紙に介護計画の内容を記載する工夫も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録が主な資料（参考）となるが変化を元に計画を見通している 職員が小さなことにも気を配っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	カンファレンスを含めいろいろな意見でサービスの幅は広がっている 取り組みたいが人手不足		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源はほとんど活用できていない 訪問美容や介護エステ、ボランティアなど十分にできている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医との連携で適切な医療はとれている	利用者の身体状態等に合わせて、複数の医療機関と連携しており、それぞれの協力医からの支援が受けられている。また、常勤の看護師が勤務している体制がつくられており、利用者の健康チェックと急変時等の対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	起きたことはすぐに報告できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	上長が行う		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	上長が行う	ホームでの利用者の看取りを見据えた支援にも取り組んでおり、医療面での支援も行いながら、ホームでの看取り支援が行われている。家族への説明の際には協力医による支援も行われており、意向等に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	できていない 救急救命の技術訓練、手順の確認は常にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練のみ協力体制があるかは不明	年２回の避難訓練は併設事業所と合同で実施しているが、次回は事業所毎に実施する意向でもある。区の消防署の協力が得られており、ホームの運営につなげている。また、地域の方との連携を深めるためにも、必要な備蓄品の準備を進めている。	ホームが地域の福祉避難所でもあるため、併設の事業所とも連携しながら、地域の方との相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全体的にみると尊厳に対しては難しいと思う その人に合った対応を心掛けている	利用者には、使い慣れた食器や着慣れた衣類を来てもらうように働きかけることで、一人ひとりの尊重につなげる取り組みにつなげている。また、管理者からも、日常の申し送りの時間に注意を促すように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一部ではあるが表現が表れている。思いとそうでない思いに対し使い分け実践できている 普段の話の中から引き出すようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	十分ではない 業務優先になるときが多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人希望で行うようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の能力に応じてできることはお願いしてもらっている	ユニット毎にその日の朝にメニューを考えており、職員により調理が行われている。定期的におやつ作りを行ったり、バイキング等の行事食の取り組みも行われている。また、重度の方に合わせたミキサー食の他、ムース食の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	WT、水分量には十分配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医の指導の下行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	本人の能力に応じ行っている	ユニットにより、職員間で利用者への声かけ等を検討しており、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。毎日の申し送りの際にも職員間で情報交換を行っている他にも、看護職員による医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤以外にも水分調整や食事、運動にも気にかけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	人員の都合もあるが曜日と時間を決め行っている 入浴日の体調を見て状態に沿った入浴をしている	日常的に入浴できるように準備を行っており、利用者の希望や状況等に合わせた対応が行われている。重度の方に合わせた職員複数での介助が行われており、可能な限り浴槽に入ってもらうように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	AMとPMでメリハリをつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	NSと連携して行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	時間の許す限り行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員体制により希望によってできていない	日常的な外出は困難ではあるが、利用者の状況等に合わせて、散歩等の取り組みが行われている。季節に合わせた外出行事が行われており、花見や公園等への外出が行われている。また、個別の外出支援も行われている。	利用者の状況や職員体制によるが、現状の利用者の外出の機会が限られた範囲となっている。可能な範囲で利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人管理に問題なければ家族に了承を得て使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	訴えがあったら行う		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	適した環境作りは極力行っている 季節の感じる掲示物にしている	ホーム内は限られた広さであるが、利用者に寛いでもらうようにその方に合わせたスペースを用意する等の配慮が行われている。また、季節に合わせた飾り付けを行っている他にも、ホームでは新たに生け花を飾る取り組みを始めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	思いをくみ取り安心できる環境の提供		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	現状のレイアウトに納得されている	居室には、利用者の馴染みの家具類の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室にはベッドが備え付けとなっているが、利用者の身体状態等に合わせて、ベッド以外での生活にも対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人が生活できるよう安心安全な環境になるよう努めている		